

運転免許仮検定時における「不安」と 「パーソナリティー」について

The Relationship between Anxiety and the
Personality in the Provisional Examination
for a Driving Licence

坂入保世、橋口泰武、榊 博文（日本大学）

1. はじめに

最近のスポーツ競技では、技術だけでなく心理的側面すなわち“あがり”対策が重視されていることから、本研究グループはスポーツ競技の“あがり”を研究課題とした。“あがり”の概念については成瀬⁽⁸⁾・長谷川⁽³⁾・長田⁽¹¹⁾・藤巻⁽¹⁾・丹羽らの著書にみられるように、視点や研究導入の相違によって多少の差異が見られるものの、一般的には「過度の興奮（緊張）により、精神（神経）に混乱を生じ、パフォーマンスが低下した状態」といわれる。又、別な観点から市村⁽⁶⁾はあがった時の現象（徴候）を分析し、“あがり”は「それぞれの（自律神経系の緊張、心的緊張力の低下、不安感情、運動技能の混乱）要因の複合的な心理学的及び生理的現象である」とのべている。日本での“あがり”の研究は、1959年頃から体育学研究や、日本体育協会誌等で報告されるようになり、その後、多種多様な研究が体育学会やスポーツ心理学会等で報告されてきた。それらの報告について徳永⁽¹²⁾らは「原因、徴候、対応策、そして“あがり”やすい人の性格等が分析され、スポーツにおける心理面のトレーニングの重要性が指摘されてきた。しかし、現状では的確な理論的説明や方法論が乏しい」と指摘しているように、今だに“あがり”に関しては理論的体系化がされていないと言えない。

本研究は過去の文献をベースに「あがり原因」「あがり現象」「緊張の程度」「不安」「パーソナリティー」等の実態調査を多面的にとらえ、そ

れらを分析することによって“あがり”の理論体系に一步でも近づければと考える。そして、そこから“あがり”の防止方法が打ち出せるのではなからうかと推論するものである。今回の報告では不安をあがりの一つの原因としてとらえ、不安内容を分析しパーソナリティーとの関連をみるものである。“あがり”をもたらし要因は内的、外的なものを含め多様であることを認めつつ、橋本⁽⁴⁾・小山⁽⁷⁾らの報告にも見られるように、場面（状況）に向かうときの不安状態が“あがり”の大きな要因にもなっている。不安をひきおこす要因も「対戦相手」「経験年数」「技術」「コンディション」等多くみられるが、今回はパーソナリティーとの関連を分析した。不安とパーソナリティーとの関連についての研究は徳永⁽¹²⁾・丹羽⁽¹⁰⁾・麓⁽²⁾らで数例の報告がみられたが、いずれも不安の「高低」とパーソナリティーとの関連で扱っており、その結果はそれぞれ異なる速度を使用しているため必ずしも単純に比較することはできない。また、それらの研究では不安の「状態」や「内容」とパーソナリティーとの関係は扱っていない。

“あがり”はスポーツ場面に限らず日常生活でも多くみられる現象であることから、スポーツ以外の領域からも資料を収集し、“あがり”の実態を把握しようとするものである。

そこで我々は、自動車教習所の運転免許仮検定時を緊張場面と設定、受験者の「属性・態度調査」・「不安調査」・「人格検査」・「あがり徴候調査」及び「心拍数測定」を実施してきた。その中から

今回は受験者の「不安」・「人格検査」との関係
を分析し、“あがり”をもたらす要因について考
察するものである。自動車教習所の仮検定時を緊
張場面とした理由は、本研究グループが大学生
700名を対象にしたあがり場面の調査結果、学生
が自動車教習所での検定時をあがった場面として
多くあげていたこと、また調査に対するテクニッ
クの背景として次のことがあげられる。(1)技術の
レベルについては、ステップ方式で受験者は検定
時に一定の基準を満ちし同等なレベルにある。
(2)自動車教習所の検定では行動時の心拍数測定が
可能と思われる。(3)検定の合否、すなわち、成功
と失敗の判定がはっきり現われるなどであった。

2. 調査方法及び対象者

被験者は総計203名(男子185名・女子18名)
で、各調査の内訳は次の通りである。「不安調査」
203名(男子185名・女子18名)、「属性・態度
調査」「徴候調査」「人格検査」は159名(男子
141名・女子18名)、心拍測定37名、ただし今回
は男子のデータだけを分析した。調査の内容につ
いては「属性・態度」は16項目、「人格検査」は
16PF(THE SIXTEEN PERSON FACTOR、
日本文化科学社)を使用、「徴候調査」は本研究
グループのこれまでの資料と文献を参考に45項目
(各5段階尺度、非常に感じた・かなり感じた・
少し感じた・あまり感じなかった・全く感じな
かった)からなる調査票を作製し使用、「不安調査」
はCSAI-2を本研究に合致するように修正した
ものを使用(以下はCSAI-2と記す)、心拍測
定機は、H・RメモリーMAC(ヴェイン社)を使
用した。尚、調査時期については、「不安調査」
は検定の45分～1時間前(コース説明時)に実施
し、「人格検査」「属性・態度調査」「徴候調査」
の調査は仮検定終了後30分～1時間30分の間に実
施した。また「心拍数測定」は被験者に対して仮
検定当日の受験者集合時間の約15分前(仮検定の
約1時間前)から仮検定終了後約30分までを継続

して測定した。調査期間は昭和60年1月から11月
までである。尚不安調査だけ被験者数が多くなっ
ているが、不安調査をした被験者が仮検定で不
合格になった場合、不合格者は筆記試験を受験で
きず、よって他の調査は実施できなかった。後に、
不合格者には面接や郵送で調査を依頼したが解答
は僅かであった。

3. 分析方法

今回の分析は、上記調査の「不安調査」・「人
格検査」それに「属性・態度調査」で記述式回答
をさせた「不安内容」とである。「不安調査」と
「人格検査」については単純集計で各調査項目ご
との度数・平均値、クロス集計では、各項目の尺
度(区分)による平均値の差の検定および各項目
との相関係数を算出した。「不安調査」の項目と
度数は表1に示した通りである。また「CSAI-
2」27項目を主因子解による因子分析をし、さら
にNormal Varimax法による直交回転を行ない4
因子を抽出した。その4因子を他項目との相
関係数を求めるため、因子ごとに項目の得点を合
計した。得点は、緊張・不安が高い程、又は、自
信がある程、リラックスしている程高得点を与
えるようにした。「属性・態度調査」による不安の
内容分析は表2に示した通りである。尚、16PF
についてはプロフィールによる分析は行なわず、
各項目の尺度点によってのみ解釈した。

4. 結果と考察

1) 「不安」と「パーソナリティー」

表3は「CSAI-2」27項目と「16PF」20項
目(第二次因子を4項目を含む)との相関係数を
現わしたものである。16PF項目の一次因子では
「知能」「罪責感」「自己統制」「浮動性不安」
の項目が「CSAI-2」の数項目とに有意な相関
がみられた。「知能」の項目では「安心した気分」
「心の準備」「胃のムカつき」「他者への気がかり」
「手の汗ばみ」「身体のかたさ」等の6項目

表1 不安27項目の平均値と度数(男子)

n = 185

項目名	平均	標準偏差	度数			
			まったく そうでない	少しは そうである	かなり そうである	まったく そうである
1 検定への気がかり	3.173	0.780	1	40	70	74
2 あがり	2.541	0.851	13	90	51	31
3 気持ちのゆとり	1.629	0.663	85	87	10	3
4 自信のなさ	2.151	0.749	26	119	26	14
5 イライラ	1.800	0.784	71	88	18	8
6 精神的こちよさ	1.427	0.638	119	55	9	2
7 運転操作への気がかり	2.892	0.969	12	62	45	66
8 身体の緊張	2.611	0.870	14	78	59	34
9 自信	1.968	0.704	42	114	22	7
10 不合格に対する気がかり	2.805	0.961	17	56	58	54
11 胃の緊張	1.886	0.932	77	67	26	15
12 安心した気分	1.541	0.720	106	62	13	4
13 ミスに対する気がかり	2.697	0.978	17	74	42	52
14 身体的リラックス	1.600	0.691	93	76	13	3
15 心の準備	2.568	0.899	19	75	58	33
16 下手な運転操作への気がかり	2.497	0.913	23	78	53	31
17 心臓の鼓動	2.405	0.971	30	85	35	35
18 上手な運転操作の自信	1.881	0.710	53	107	19	6
19 目標達成への不安	2.622	0.946	19	74	50	42
20 胃のムカつき	1.649	0.919	108	48	15	14
21 精神的リラックス	1.719	0.790	83	79	15	8
22 他者への気がかり	1.822	0.927	83	68	18	16
23 手の汗ばみ	1.903	0.993	81	61	23	20
24 目標達成への自信	1.843	0.793	65	94	16	10
25 精神的集中への不安	2.157	0.988	52	78	29	26
26 身体のかたさ	2.108	0.900	48	87	32	18
27 合格への自信	2.049	0.846	47	97	26	15

注 質問項目は日本語版CSAI-2を自動車免許仮検定用に修正したものを使用

表2 不安内容分析(自動車仮検定)

回答者71名(回答率50%)

項目	回答数	内容
不合格に関する不安	10	合格するかどうか。検定に落ちるのではないか。
	15	自分だけ落ちるのではないか。落ちたらはずかしい。
技能に関する不安	24	失格しないか。上手に操作できなかったら。
	17	脱論、エンストをしなければよい。コースを間違えないか。
その他	5	寝不足。二日酔い。嫌いな教官。車の具合。
無回答	70	

で危険率5%の有意差がみられた。「CSAI-2」27項目中有意な相関がみられたのは6項目と少ないが、「低知能群」(甘い判断、低い士気、支離滅裂傾向)は「高知能群」(優れた判断、高い士気、がんばり、知的関心が高い)より検定前に不安が高まったと考えられる。「罪責感」の項目は「自信のなさ」「不合格に対する気がかり」「下手な運転操作への気がかり」「胃のムカつき」等

で危険率0.1%で有意、「イライラする」「ミスに対する気がかり」「上手な運転操作への自信」「精神的集中への不安」で危険率1%で有意、「検定への気がかり」「自信」「胃の緊張」「心臓の鼓動」「目標達成への不安」「手の汗ばみ」「身体のかたさ」等で危険率5%で有意であった。つまり「CSAI-2」27項目中15もの項目において有意差がみられた。すなわち「罪責感群」(自信が

表3 不安項目と16PFとの相関値

不安項目	16PF																n = 141			
	情緒的 分裂的	高知能 低知能	高自我 低自我	支配的 服従的	高潮的 退潮的	強超自我 弱自我	脅威に 抵抗的	情緒過 敏主義	内的緊 張的	自閉性 現実性	狡猾 無技巧	罪責感 充足感	急進性 保守性	自己統 制依存	高統制 低統制	高緊張 低緊張	外向性 内向性	高不安 低不安	行動的 依存的	独立性 依存性
1. 検定への気がかり	.023	.001	-.135	.106	.044	.065	-.016	-.083	.192	.018	-.001	.212	.067	.014	-.246	.259	.064	.280	.039	.001
2. あがり	-.053	-.047	-.095	.056	.040	.055	.032	.070	.037	.092	.046	.148	.001	.098	-.149	.159	.001	.154	.027	.001
3. 気持ちのゆとり	-.023	-.001	-.001	.046	.043	-.151	.051	-.001	-.001	.001	-.065	-.130	.049	-.050	-.098	-.057	.061	-.081	.101	.091
4. 自信のなさ	.001	-.100	-.090	.111	.001	.077	-.012	-.023	.090	.025	-.058	.287	.014	-.023	-.111	.170	.027	.219	-.013	-.056
5. イライラ	-.037	-.090	-.118	.107	.047	.060	-.039	-.001	.080	.037	-.048	.244	-.072	-.010	-.142	.222	.035	.242	.047	-.048
6. 精神的こちよさ	.001	-.116	-.102	-.081	-.059	-.049	-.037	-.061	.027	-.028	.025	-.016	.001	-.062	.166	.020	-.056	.018	-.076	-.070
7. 運転操作への 気がかり	.077	.056	.038	-.032	-.046	.102	-.001	.093	-.157	.088	.042	.161	.018	.188	-.071	.039	-.084	.064	-.081	-.024
8. 身体の緊張	-.021	.048	-.068	.028	-.028	.083	-.038	.099	-.001	.084	.001	.161	.012	.108	-.076	.167	-.047	.161	-.013	-.001
9. 自信	-.084	-.098	-.020	.023	.022	-.119	.018	.073	-.053	.001	.092	-.198	-.001	.028	-.097	.033	-.019	-.061	.076	.032
10. 不合格に対する 気がかり	.052	-.063	-.100	.141	.012	.023	-.001	-.034	-.062	.111	-.188	.278	.021	.075	-.065	.238	.049	.224	.056	.026
11. 胃の緊張	.001	-.105	-.154	.138	.026	-.098	-.053	.020	-.012	.134	-.078	.213	.011	-.001	-.144	.246	.025	.218	.048	.038
12. 安心した気分	-.079	-.203	.001	.029	-.067	.013	.101	.044	.041	.012	-.179	-.069	-.029	-.079	.036	.055	.056	-.016	.043	.001
13. ミスに対する 気がかり	.095	-.023	-.014	.092	.040	.104	-.080	.127	-.011	.032	-.052	.238	-.132	.057	-.082	.176	.001	.191	-.095	-.078
14. 身体的リラクセス	-.017	-.085	.019	-.001	-.029	-.001	.052	.063	.120	-.001	-.013	-.101	.032	-.046	.071	-.021	.028	-.051	-.062	.048
15. 心の準備	-.001	.175	.056	.001	.084	-.074	.119	.106	.001	-.034	.077	-.154	.111	-.032	-.018	-.093	.068	-.129	.014	.121
16. 下手な運転操作 への気がかり	.054	-.085	-.139	.094	.010	.061	-.080	.001	.018	.073	-.016	.295	-.056	.034	-.210	.170	-.012	.241	-.032	-.078
17. 心臓の鼓動	-.069	-.054	-.036	.035	.047	.091	-.133	-.001	.039	-.001	-.046	.190	.070	-.028	-.124	.276	.061	.001	.246	-.128
18. 上手な運転操作の 自信	-.001	.014	.046	.124	.163	-.090	.192	-.001	.116	-.081	.116	-.218	-.020	-.057	.001	-.075	.172	-.133	.067	.145
19. 目標達成への不安	.109	.078	-.047	.030	-.022	.029	-.097	.073	-.010	-.040	-.018	.205	.186	.197	-.130	.192	-.067	.202	-.104	.001
20. 胃のムカつき	-.037	-.219	-.154	.150	.033	.013	-.021	.024	.066	.043	-.114	.290	-.050	-.023	-.154	.276	.047	.284	.043	-.051
21. 精神的リラクセス	.054	-.035	.050	.019	.034	-.044	.134	.084	.080	.031	.020	-.126	.026	-.051	-.028	-.104	.065	-.116	-.061	.092
22. 他者への気がかり	.136	-.212	-.111	.122	.065	-.138	-.001	.042	-.040	.117	-.097	.156	-.082	.079	-.244	.145	.048	.147	-.001	.001
23. 手の汗ばみ	-.065	-.184	-.112	.056	-.030	.020	-.071	.077	.134	.083	-.055	.191	-.126	.001	-.102	.155	-.040	.193	-.017	-.055
24. 目標達成への自信	-.093	-.083	-.028	.012	.033	-.141	.031	.001	.072	-.109	.014	-.156	-.036	-.058	-.001	.044	.031	-.028	.066	.001
25. 精神的集中への 不安	-.025	-.098	-.191	.058	.001	-.043	-.106	-.042	.124	-.131	-.154	.227	.092	.061	-.195	.304	-.010	.315	.058	-.129
26. 身体のかたさ	-.099	-.166	.001	.081	.001	.072	-.110	-.012	-.001	.022	-.046	.170	-.062	.050	-.170	.244	-.028	.211	.108	-.090
27. 合格への自信	.047	.114	.121	.080	.080	-.063	.021	-.011	-.036	-.203	.154	-.140	-.037	.068	.011	-.001	.038	-.068	.032	.034

*P<.1 **P<.05 ***P<.01 ****P<.001

ない、自責的、不安定な、心配性、人目を気にする)は「自信群」(落ち着いた、穏やかな、安定した、満足感)より検定前に不安が高まったと言える。「自己統制」の項目では「検定への気がかり」「精神的こちよさ」「下手な運転操作への気がかり」「他者への気がかり」「精神的集中への不安」「身体のかたさ」等で危険率5%で有意であった。つまり「CSAI-2」27項目中6項目で有意な相関がみられた。すなわち、「無統制群」(気まま、しまりのない、衝動的、無軌道)は「統制群」(自律的、意志的、きちょうめん、自制的)より仮検定前で不安が高まったと考えられる。「浮動性不安」項目は「心臓の鼓動」「胃のムカつき」「精神的集中への不安」等で危険率0.1%で有意、「検定への気がかり」「不合格に対する気がかり」「身体のかたさ」で危険率1%

で有意、「自信のなさ」「身体の緊張」「ミスに対する気がかり」「目標達成への不安」等の項目と危険率5%で有意であった。つまり「CSAI-2」27項目中12項目で5%以下の有意差がみられた。すなわち、「高緊張群」(固くなる、欲求不満的、興奮的、いらいらした)は「低緊張群」(くつろぐ、穏やか、不活発、平静)より仮検定前で不安が高くなったと言える。16PFの一次因子ではパーソナリティ特性で罪責感が高い程、緊張感が高い程、仮検定前に不安が高まったと推測できるし、知能が低い程、統制がない程、仮検定前に不安が高まる傾向にあったと思われる。

16PFの二次因子4項目をみると、「不安」項目が「CSAI-2」27項目中13項目で5%以下の有意差がみられた。この二次因子の不安項目は、一次因子の「浮動性不安」「罪責感」「自我強度」

「猜疑心」「不安抑制力」で構成されている。すなわち、二次因子では「自信がない群」「放縱的（衝動的）なもの」「固くなる（落ち着かない、張りつめた）もの」が、自動車教習での仮検定時において不安感を高める一つの要素といえる。今回の結果は、上述したように仮検定前に不安を規定するパーソナリティ特性として「罪責感」、「知能」「自己統制」「浮動性不安」の項目があげられた。しかしこれらの結果は徳永⁽¹²⁾・丹羽⁽¹⁰⁾らの報告と必ずしも一致しなかった。このことは緊張場面、検査様式等の相違が起因するとも考えら

れ、今後より検討する必要がある。

次に「CSAI-2」を因子分析した結果を表4に示す。抽出された4因子は、緊張・自信・不安・リラックスと解釈した。これは橋本⁽⁵⁾らがスポーツ選手に実施した因子分析と少し異なる結果となったが、場面、緊張の度合、測定時期等の相違があり当然の結果ともおもわれる。これら抽出された各々の因子に項目得点を加算し尺度点を作成し、それと16PF項目との相関値を算出した。その結果を表5に示す。「罪責感」の項目では「緊張因子」「不安因子」で0.1%の危険率で有意であり、

表4 日本語版CSAI-2（仮検定用に修正）の回転後の因子負荷量

因子	測定項目	F1	F2	F3	F4	h ²
緊張	身体のかたさ	752	-196	196	-242	701
	胃のムカつき	724	-085	084	026	539
	胃の緊張	712	010	181	-144	561
	手の汗ばみ	701	-139	131	-056	531
	心臓の鼓動	674	014	362	-234	640
	あがり	633	-172	216	-337	591
	身体の緊張	605	-153	359	-320	621
	イライラ	542	-221	103	-275	428
	精神的集中への不安 他者への気がかり	501 449	-187 -172	259 307	-106 219	364 373
自信	目標達成への自信	014	790	-184	301	749
	合格への自信	-124	743	-180	-007	600
	上手な運転操作の自信	-175	718	-038	291	632
	自信	-011	687	-334	027	584
	心の準備	-296	652	142	139	552
	自信のなさ	465	-567	114	-011	550
不安	不合格に対する気がかり	237	-172	741	-032	636
	運転操作への気がかり	245	-170	634	-180	523
	ミスに対する気がかり	449	-014	616	-167	610
	目標達成への不安	337	-302	607	-131	591
	下手な運転操作への気がかり	533	-283	534	-141	668
	検定への気がかり	303	060	482	-299	417
リラックス	精神的リラックス	-116	115	005	717	540
	身体的リラックス	-222	178	-239	703	633
	気持ちのゆとり	-266	171	-009	671	555
	精神的こころよさ	-066	070	-261	590	426
	安心した気分	017	084	-432	456	402
固有値		5.351	3.460	3.313	2.887	15.011
全分散寄与率(%)		19.820	12.815	12.270	10.693	55.600

表5 不安因子と16PFとの相関値

		n=141																			
不安因子	16PF	情緒的	高知能	高自我	支配的	高潮的	強超自我	脅威に抗過性	情緒過現実主義	内的緊張	自閉性	狡猾	罪責感	急進性	自己集団依存	高統合	高緊張	外向性	高不安	行動的	独立性
		分裂的	低知能	低自我	服従的	退潮的	弱超自我	脅威に抗過性	情緒過現実主義	内的緊張	自閉性	無技巧	充足感	保守性	低統合	低緊張	内向性	低不安	低不安	心情的	依存的
F1	緊張	-.038	-.164	-.148	.119	.029	.014	-.070	.037	.059	.066	-.087	.283	-.083	.046	-.214	.313	.001	.310	.052	-.068
F2	自信	-.030	.059	.063	.032	.086	-.126	.090	.046	.001	-.105	.117	-.258	.001	-.001	.001	-.060	.061	-.144	.059	.091
F3	不安	.093	-.001	-.088	.093	.001	.086	-.062	.046	-.015	.063	-.053	.307	.020	.129	-.172	.233	-.012	.261	-.051	-.033
F4	リラックス	-.015	-.124	-.001	.001	-.010	-.065	.092	.039	.078	.001	-.060	-.130	.023	-.082	.035	-.035	.043	-.075	-.016	.053

*P<.1 *P<.05 **P<.01 ***P<.001

「自信因子」とは1%の危険率で有意であった。「自己統制」の項目では、「緊張因子」「不安因子」で5%の危険率で有意であった。「浮動性不安」項目では「緊張因子」と0.1%の危険率で有意であり、「不安因子」とは1%の危険率で有意であった。すなわち、「罪責感」の項目では「リラックス因子」を除く他の3因子との相関がみられ、「罪責感群」は緊張が高まり、自信がなくなり、不安感が高まるといえよう。「自己統制」、「浮動性不安」の項目では、「緊張因子」「不安因子」と相関がみられ、無統制群、高緊張群程、仮検定前で緊張が高まり、不安が高まったといえる。このようにパーソナリティ特性によって不安の内容(種類)が異なることが推測できる。依って不安内容をより分析する必要があると思われる。第二次因子では「不安」項目で「緊張因子」と0.1%、「不安因子」と1%の危険率で有意差がみられた。すなわち一般的な不安が高い場合、仮検定前に緊張感や不安感が高まったといえる。

2) 「不安の内容」と「パーソナリティ」

「不安の内容」については表2のとおりである。不安についての設問は「この検定で不安を感じた人がいましたら、どのような不安か箇条書きで記入して下さい」とし、不安内容を具体的に記入してもらった。回答者は被験者141名中70名で約50%の回答率であった。回答の内容分析にあたっては、まず内容を「不合格に対する不安」「技能に対する不安」「その他」の3項目に大別し、さらに「不合格に対する不安」「技能に対する不安」の2項目は「漠然とした回答」と「具体的な回答」に分けた。また複数回答があったが、他項目とのクロス集計をするため第一位記入を回答とした。上記3群を「属性・態度調査」の「合否」「あがり意識」項目でみると、「不合格に対する不安」群は「技能に対する不安」群より有意差がみられなかったものの平均得点が高い。すなわち、「不合格に対する不安」群は「技能に対する不安」群より不合格者が多く、あがりの自覚が強い傾向で

あった。たとえば合否の比率をみると「不合格に対する不安」群は25名中4名(16%)の不合格者があり、「技能に対する不安」群は41名中1名(2.4%)である。また「その他」群は上記2群に比べどの項目でも平均値が低くあがりに関する自覚が弱かったと言えよう。そこで、「不合格に対する不安」群と「技能に対する不安」群を16PFの項目とクロス集計し差の検定を試みた。その結果、どの項目においても有意差がみられなかった。しかし、「その他」群は16項目の全ての項目で得点平均値が最高点か最低点であり、他の2群と異なった傾向を示していた。

結 論

本研究は、自動車教習所の仮検定時を緊張場面と設定し、被験者141名(男子)の仮検定前の不安状態(CSAI-2)と自由記述させた不安内容を分析し、それと16PFとの関連をみたものである。

その結果は次のように要約される。

- 1) CSAI-2の項目と16PFとの関連をみた限り、「罪責感群」は「自信群」より、「高緊張群」は「低緊張群」より仮検定前に不安感が高くなった。また「低知能群」は「高知能群」より「無統制群」は「統制群」より仮検定前に不安感が高くなる傾向がみられた。
- 2) CSAI-2項目を因子分析した結果と16PFでは、「罪責感」の項目では「緊張因子」「不安因子」「自信因子」と有意な相関がみられ、「自己統制」「浮動性不安」の項目では、「緊張因子」「不安因子」と有意な相関がみられた。
- 3) 不安の内容分析では、不安の内容によって16PFの項目に有意差はみられなかった。

参考及び引用文献

- (1) 藤巻尚憲 体育心理学研究 p.194～p.195
杏林書院 1972
- (2) 麓 信義他1 陸上競技におけるあがりの意識と性格 スポーツ心理学研究 Vol.11, No.1

- p.66-68 1984
- (3) 長谷川浩一 スポーツと競技の心理(講座・現代のスポーツ科学⁸⁾) p.287~p.310
大修館書店 1983
- (4) 橋本公雄他2名 スポーツ選手の競技不安に関する研究 日本体育学会34回大会号
p.206 1983
- (5) 橋本公雄他2名 スポーツ選手の競技不安の解消に関する研究 福岡工業大学エレクトロニクス研究所所報 第一巻 p.77-86 1984
- (6) 市村操一 スポーツにおけるあがりの特性の因子的研究 体育学研究 Vol.9, No.2
p.18-21 1965
- (7) 小山 哲他2名 テニスプレイヤーの競技不安について スポーツ心理学研究
Vol.7, No.1 p.1-7 1980
- (8) 成瀬悟策 要求水準の研究(関 計夫編)
p.25~p.264 金子書房 1980
- (9) 丹羽劭昭 運動心理学入門(松田岩男編)
p.207~p.210 大修館書店 1983
- (10) 丹羽劭昭 大学運動部員の不安傾向と心理的諸特性との関係 スポーツ心理学研究
Vol.7, No.1 p.8-15 1980
- (11) 長田一臣 スポーツ心理学概論(日本スポーツ心理学会編) p.100~p.102
参陽社 1984
- (12) 徳永幹雄他4名 競技不安に関する社会心理学的研究 日本体育学会364回大会号
p.160 1985

(昭和63年1月30日受付)